

tam tam

2021.1

VOL. 08

P1 [特集]
“だけじゃない”男女共同参画P2 [特集]男女共同参画センターがあるという意味
男女共同参画センターの事業紹介P3 隣の自治協さん「黒井地区自治協議会」
丹波市民、学びの窓「身近に起る災害に備える」P4 繋ぐ!市民活動「森のムツレ市島」
活動事業者紹介「芦田集学校」SPECIAL FEATURE
今号の特集

“だけじゃない”男女共同参画

■なぜ、男女共同参画が必要なのか？

すべての人が性別にかかわりなく、互いに人権を尊重しつつ責任を分かち合い、その個性と能力を発揮する男女共同参画の姿は、理想の社会です。誰もがあらゆる分野の活動や意思決定の場に参画し、共に活躍することが欠かせません。

「個性の時代」「多様性の時代」と言われますが、個性や能力、向き不向きは単純な性別の違いで決まるものではないことは明らかです。また「人生100年時代」とも言われ、仕事・子育て・老後と単線型の人生設計だけではなく、ワーク・ライフ・バランスを考え、100年という時間をいかに自分らしく豊かに過ごすのかに注目が集まっています。



■地域社会において、 男女共同参画を考えることとは？

人口減少、少子高齢化社会の到来、大災害などを契機とした安全・安心に対する意識の高まり。その中で、どの地域でも「担い手不足」「若者不足」が叫ばれ、地域自治に対して活動する人材がいないと言われています。しかし、この背景には長年続けてきた男性中心の仕組みがあります。例えば、丹波市内の自治会長に女性が就任しているのは、全299自治会のうち1つしかありません。これまで男性中心で実施してきたことを女性が担うという単純な話ではありませんが、女性の参画を促すこととは、人口減少社会において切り札になる可能性があります。



■男女共同参画の壁（ハードル） になっているものは？

「男性は仕事、女性は家庭」だと決めつけることを固定的な性別役割分担意識と言います。丹波市の調査では、役割分担意識に対して2016年度では「反対」が54.4%だったのが、2019年度では66.2%に増えています。しかし、男女の地位について「平等」と考える割合が低下しており、「男性優遇」と感じている人が圧倒的に多いのが現状です。

また、個人によって直面する課題が異なり、特に女性は結婚、出産などのライフイベントにより、生き方、働き方にも大きな影響があります。それぞれの課題に合わせた支援が求められます。

■丹波市男女共同参画センターが目指す姿

男女の問題に取り組むことは、心の中の様々な「偏見」を見直す良い機会です。例えば「この仕事は、男性の仕事」と当たり前に思っていたことを、「この仕事は力仕事だから、誰が得意だろう」と考えてみる。男女共同参画は、男女の違いの線をなくして全ての人と同じにすることではありません。線の引き方を考えてみることで、社会課題解決の糸口が見えてくるのではないかでしょうか。男女共同参画センターでは、様々な方が集い、対話を重ね、ともに活動することで、全ての人が個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を目指します。



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

SPECIAL FEATURE

Topics 01 男女共同参画センターがあるという意味

丹波市では、2018年に「第3次丹波市男女共同参画計画」を策定しました。この計画に基づき、2019年4月に「丹波市男女共同参画推進条例」を制定、その後、「丹波市男女共同参画センター」を設置しました。

兵庫県内市町の状況（2020年10月現在、全41市町）をみると、男女共同参画に関する条例を制定しているのは9市1町、計画を策定しているのは29市11町、活動拠点施設を設置している市町は21市となっています。その全ての実施している市町は、兵庫県南部に偏っており、その中で丹波市は最北に位置します。

条例では、市、市民、事業者、市民団体、教育関係者、それぞれの立場で

努める事項が定められ、皆さん協働して取り組む必要性が示されています。また地域内の男女共同参画の推進では、市内には約400名の自治会男女共同参画推進員が活動しています。

活動拠点施設である丹波市男女共同参画センターは、商業施設にあるという利点を活かし、誰もが気軽に立ち寄

れる場所で普及啓発などを進めています。また、職場環境の問題やセクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスなど女性の悩み相談窓口でもあります。丹波市がより暮らしやすいまちとなるため、利用者や連携団体が増え、これからますます活性化していく場所の1つです。



アンガーマネジメントの講座



女性に対する暴力をなくす運動の啓発

SPECIAL FEATURE

Topics 02 丹波市男女共同参画センターの事業紹介

2019年10月に開設した丹波市男女共同参画センターは、男女共同参画についての普及啓発、悩み相談に加え、センターから飛び出して実施する出前講座のメニュー化や地域で活躍するリーダーの育成に注力していきます。



普及啓発

セミナーや講座を開催し、幅広い学びや気づき、エンパワメントを応援しています。



就業支援

女性の起業や再就職、地域活動への参加など、1人ひとりに合った働き方をサポートしています。



悩み相談

女性が抱える悩みや課題の解決に向け、専門の女性相談員による悩み相談を実施しています。



情報提供

男女共同参画、女性・男性問題の解決に関する情報の収集と提供、図書や関連資料の貸し出しを実施しています。



人材育成

地域の自治会男女共同参画推進員や活躍する女性向けに研修会を開催し、担い手を育成します。



活動支援

活動の場づくりや仲間づくりを支援します。また自治会などへの補助金で地域での取り組みを応援しています。

隣りの 自治協 さん

TONARI no
JICHIKYO san

黒井地区自治協議会

交流人口と地域づくり人口の増加を因指す

最近では NHK 大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公、明智光秀ゆかりの黒井城跡に登山する人が絶えず、遠近問わずに多くの方が黒井地区を訪れています。昨年 11 月 14 日には恒例の「黒井城まつり」が開催され、元プロボクサーで俳優の赤井英和さんを先頭にした 54 人の武者行列がお祭りを盛り上げました。この行事では住民はもちろんのこと、遠方からは丹波篠山市の八上城麒麟がくる委員会、福知山市・亀岡市の手作り甲冑の会、丹波亀山鉄炮隊などのメンバーが参加して、黒井城をご縁にした他市住民との交流が生まれています。

今年度はコロナ禍で市内の多くの活動が休止されていますが、黒井地区では感染予防の対策を取りながら、協議会で計画していたほとんどの事業に取り組みました。そして、今年からはコミュニティカフェのオープンや龍谷大学との連携事業も視野に入れながら、地縁認可団体による法人格の取得にも取り掛かるとのこと。これからは、交流が生み出す人口の増加だけでなく、内外の地域づくりに関わる人口をどのように増やしていくのかが課題となっています。

歴史と文化を育む墨井の里

黒井地区自治協議会は、春日地域中央部の黒井小学校区に位置し、人口約3,400人、約1,430世帯、19自治会で構成されています。JR黒井駅や春日インターがあることから丹波市の玄関口でもあり、市役所春日庁舎や金融機関、スーパー・マーケットなどの店舗、氷上高校などの学校もあります。市まちづくりビジョンでは都市機能として交流連携ゾーンと位置付けられ、「住んでよし、訪ねてよし、歴史と文化を育む黒井の里」という地区的キャッチコピーからは住民だけでなく、外から訪れる人にも黒井の良さを知ってもらいたいという思いが伝わってきます。



黒井城跡上空から見た黒井地区



里井城まつり

丹波市民、學びの窓

身近に起きた災害に備える

近年、台風や豪雨による風水害や土砂災害は、増加の傾向にあります。国内外では大型地震が多く、30年以内に70～80%の確率で発生すると言われる南海トラフ大地震は、丹波市で震度6弱の揺れが予想されています。その他にも、火災や原子力災害、感染症による被害も災害と言えるでしょう。

今年度の地域づくり大学で講師をされた防災士の中村伸一郎さんは、「50年に一度、100年に一度の災害が毎年のようにやってきています。まさか、私が・・・はもう通用しません。あなたに守れる命があります。そのために、今できることがあります。」と話されました。学んでいれば、守れた命があつたはず・・・そう思うといかに日々の備

えが大切かということが分かります。

丹波市防災マップには浸水想定区域と水深、土砂災害の恐れがある箇所、避難場所、普段の備えや非常時の対応などが記載されています。市役所・住民センター・各自治協議会などに置いてあり、市ウェブサイトからダウンロードすることもできます。また、地震ハザードマップは、三峰断層帯地震(地域によっては山崎断層帯地震)、御所谷断層帯地震、東海・東南海・南海地震の3つを想定し、揺れの程度や建物被害の予想が載っています。さらに県ウェブサイトでは、最新の風水害対策情報がCGハザードマップになったものや、気象情報、山や河川のリアルタイム情報、ライブカメラ画像、防災

学習など、平常時・非常時にかかわらずに活用できます

家庭やご近所で、自治会や小学校区でこのような情報を共有しながら、まずは知ることから災害時の備えを始めよう





繋ぐ!市民活動

一般社団法人日本野外生活推進協会

市島支部（森のムッレ市島）

子どもたちが楽しく自然を学ぶ活動を推進している一般社団法人日本野外生活推進協会には、30年の歴史があります。通称「森のムッレ協会」と呼ばれ、スウェーデンで行われている子どもの野外教室プログラムを日本で初めて実施した市島に日本の本部があります。現在、全国各地に活動を広げており、丹波市内で「ムッレ教室」を行っているのが「森のムッレ市島」です。子どもたちは「ムッレさん」の愛称で親しまれています。

子どもたちの年齢に合わせ、五感を使って自然の中で楽しく遊ぶ方法を教えています。会長の高見さんは「難しい知識や環

境問題から自然を知るのではなく、子どもの経験として、自然は楽しいものだが弱いものもあり、大切にしなければならないことを理解でき、これが環境問題を考える土台になる」と言います。

森のムッレ市島でもこの理念をもとに森のムッレリーダーが家族で参加できる教室を企画、実施しています。ボランティアで集まっているリーダーたちは、研修を受け、今後も子どもたちに自然を見つめ、向き合うことの楽しさを伝えています。



拾ってきた落ち葉で自然を学ぶ



設立当初の野外教室 妖精のムッレさん登場



活動事業者紹介

リングロー株式会社（芦田集学校）

リングロー（株）は主に中古 OA 機器のリユースを手がける会社（本社：東京）です。事業の1つに「ITと人のつながりで、地域を元気に」を目的とし、地域のシンボルであり、住民が集まりやすい場所でもある校舎（廃校）を活用した「おかえり集学校プロジェクト」があります。丹波市では旧芦田小を活用した「芦田集学校」を昨年からプレオープン、1月 17 日に開校しました。同日に開催したオープニングイベントは、昔遊びや焼きあまご等もある中で、VR（バーチャル・リアリティ）体験や簡単なプログラミング体験など、まさにデジタルとアナログの両方を楽しめる、芦田集学校ならではの場

となりました。

コロナ禍にあって、IT によってつながりをつくる、地域で集まれる場所をつくる重要性が顕在化している中、芦田集学校は「教育」と「プログラミング」をコンセプトに、子どもから高齢者まで気軽に立ち寄れる場所とし、その中で IT 機器等に触れ、学び、楽しめる場所にすることを目指しています。今後はグループで話す・作業できるスペースの提供、パソコン等の相談窓口、プログラミング教室など活動を広げていきます。



旧芦田小学校を利用した芦田集学校



開校式の様子



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市水上町本郷 300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内

TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 ~ 18:00 (会議室は 21:30 まで) / 休館 毎週月曜日・12月 29 日～1月 3 日

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさんがご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。